

- (3) <Shall we+動詞の原形 ~?>は「いっしょに~しませんか」という<勧誘>を表す。itは1行目のan ESS meeting「英会話クラブの集まり」を指す。orが用いられており、今日の正午か明日の放課後のどちらがいいかを次郎に選ばせる疑問文になっている。
- (4) No problem.は「問題ありません」「大丈夫です」という意味なので、リーファンは次郎の「明日それ(=英会話クラブの集まり)を開いてもいい?」という質問に対して「明日でいいよ」と言っているのだとわかる。よってウの「もちろんです」「いいですよ」が同じ意味を表す。ア「いいえ、だめです」、イ「わかりません」、エ「もちろんしません」では合わない。
- (5) 訳「次郎は今日の午後何をするつもりですか」2行目にthis afternoonとあるので、これを手がかりにして答える。

6 英文の内容

ある日、大きな池の近くで遊んでいた数人の少年たちが、池に石を投げて楽しんでた。ある少年が、誰が石を池の中にある大きな岩まで届かせることができるかと言うと、皆が自分ができると言ってその岩を狙ったが、誰も届かせることはできなかった。岩は岸からあまりにも遠かったので、石はただバシャンバシャンと水面を打つだけだった。その池にはたくさんのカエルが住んでおり、石はカエルたちに当たっていた。年寄りのカエルが水面に頭を上げて、池に石を投げるべきではない、僕らに石を当ててけがをさせているのかわからないのかと言った。少年たちは、自分たちはただ楽しんでいるだけだと答えたが、カエルは、きみたちは楽しいかもしれないが、自分たちは楽しくないのだ、と言った。

- (1) ① 過去の文なので過去形にする。throwの過去形はthrew[θrú:]。
③ 過去の文なので過去形にする。助動詞canの過去形はcouldで、否定形はcouldn't。
- (2) 訳「誰があの岩に届かせることができますか」下線部②の直後の文ではかの少年たちが「僕ができる」と答えていることから、「誰が~できますか」という疑問文だと判断する。Who can で始め、そのあとに動詞の原形reachを置き、目的語にはthat rockを置く。
- (3) 助動詞shouldは「~すべきである」という意味なので、その否定文は「~すべきではない」という意味。youは少年たちを指しているのので、「あなたたち」と複数形で訳す。
- (4) 下線部⑤は「あなたたちはわからないのですか」という意味。直後の文に「あなたたちは私たちに(石を)当ててけがをさせています」とあるので、「石がカエルたちに当たり、カエルたちにけがをさせているのかわからないのですか」という意味だと考えられる。
- (5) ⑥⑦を含む文は「たぶんそれは(⑥)にとっては楽しいでしょうが、(⑦)にとっては楽しくありません」という意味。直前の文の内容から、⑥にyou「あなたたち(=少年たち)」、⑦にus「私たち(=カエルたち)」が入るとわかる。
- (6) 訳「少年たちはカエルたちを狙いましたか」第2段落に「彼ら(=少年たち)はその大きな岩を狙いましたが、届かせることができませんでした」とあるので、岩を狙った石が届かずに、結果的にカエルに当たったのだとわかる。

- 7 (1) I can ~. 「私は~できます」で表す。canのあとには動詞の原形を置く。
(2) I[We] have to ~. 「私[私たち]は~しなければなりません」で表す。toのあとには動詞の原形を置く。

解答

- 1 (1) ウ (2) イ (3) ア
2 (1) fish, fish (2) child, children (3) woman, women (4) foot, feet
(5) deer, deer (6) mouse, mice
3 (1) Watch out (2) on, first floor (3) What time, in London (4) I'm lost
(5) you know
4 (1) There are some notebooks in her bag. (2) There is some milk in the fridge.
(3) Was there a big tree in the park ten years ago?
(4) How many hot dogs are there on the table? (5) There was no water in the bottle.
5 (1) ① what's, problem ④ went away (2) There's a snake under those bushes(.)
(3) (a) no (b) under the[those] bushes (4) No, he didn't.
6 (1) are (2) like maple syrup on their pancakes
(3) Are there any Chinese restaurants in Vancouver?
(4) ④ Canada's flag ⑤ a big red spot (5) There are two colors.
7 (1) (例) There are some textbooks on my desk.
(2) (例) There are no flowers on my desk.

解説

- 1 (1) mapleは[mæpl], Canadianは[kən'eidiən], flagは[flæg]と発音するので、ウが異なる。
(2) morningは[mɔ:rnɪŋ], starは[stɑ:], orderは[ɔ:rdə]と発音するので、イが異なる。
(3) teaseは[tí:z], Frenchは[frénts], sketchは[skétʃ]と発音するので、アが異なる。
- 2 (1) fish「魚」は単複同形なので、複数形もfish。
(2) child「子ども」の複数形はchildren[tʃɪldrən]。
(3) woman「女性」の複数形はwomen[wimɪn]。発音に注意。
(4) foot「足」の複数形はfeet[fi:t]。
(5) deer「シカ」は単複同形なので、複数形もdeer。
(6) mouse「ハツカネズミ」の複数形はmice[má:is]。
- 3 (1) 差し迫っている危険について「気をつけて!」と言うときはWatch out!とする。be carefulも「気をつける」だが、「あらかじめ用心しておくように」という意味で用いられる。
(2) 「1階に」はon the first floor。
(3) 「~では今何時ですか」と時間を尋ねるときはWhat time is it in ~ now?で表す。
(4) 「私は迷子になってしまいました」はI'm lost.で表す。
(5) 相手が知っていることを「~でしょ?」と確認する場合は、文末にyou knowをつける。

- 4 (1) 訳 「彼女はかばんの中に何冊かのノートを持っています」→「彼女のかばんの中には何冊かのノートがあります」 「～があります」はThere is[are] ～.で表す。be動詞は「～」の部分にくるものに合わせる。ここではsome notebooksに合わせてareを用いる。
- (2) 訳 「冷蔵庫の中に少しの牛乳があります」 「～があります」という文なので、There is[are] ～.で表す。milkは物質名詞なので、be動詞はisを用いる。
- (3) 訳 「公園には大きな木があります」→「10年前、公園には大きな木がありましたか」ten years ago「10年前」をつけるので、be動詞を過去形にする。疑問文をつくるにはbe動詞とthereを入れかえればよいので、Was there ～?という形になる。
- (4) 訳 「テーブルの上には10個のホットドッグがあります」→「テーブルの上には何個のホットドッグがありますか」ホットドッグの個数を尋ねる文にすればよいので、文頭にHow many hot dogsを置く。また疑問文なので、thereとbe動詞を入れかえる。
- (5) 訳 「びんの中には少しの水がありました」→「びんの中には水がありませんでした」 「～がありませんでした」はThere was[were] no ～.で表す。

思い出そう

There is[are] ～.の文

肯定文: There are some pencils on the desk. (机の上に何本かの鉛筆があります)

主語 場所を表す副詞句

※主語が2つ以上ある場合、be動詞は最初の主語に合わせる。

(例) There is an eraser and three pencils in the drawer. (引き出しの中には消しゴム1個と鉛筆3本があります)

疑問文: Are there any pencils on the desk? (机の上に鉛筆がありますか)

主語 場所を表す副詞句

否定を表す文: There are no pencils on the desk. (机の上に鉛筆はありません)

主語 場所を表す副詞句

※noのあとの名詞が単数形ならば、be動詞はis[were]にする。

5 英文の内容

ブラック先生がリーファンにどうしたのかと声を掛けると、リーファンは、茂みの下にヘビがいるので殺してくださいと言う。茂みの下にヘビはいたのだろうか、今ヘビはそこにいないとブラック先生が言うと、リーファンは次郎に、あなたが騒ぎすぎるからヘビが逃げたのだと言う。

- (1) ① 「どうしたの[問題は何ですか]?」は「問題」を表す名詞problemを用いてWhat's the problem?と言う。
- ④ 「逃げる」はgo away。ここでは過去の文なので、goの過去形wentを用いる。
- (2) 訳 「あの茂みの下にヘビがいます」 there'sがあるので、There's ～.「～があります」の文だと判断する。be動詞にisが用いられているので、主語は単数だとわかる。よってa snakeを主語にし、場所を表す副詞句をunder those bushes「あの茂みの下に」で表す。
- (3) (a) 下線部③の前に「たぶん茂みの下にヘビはいたのでしょうか、しかし～」とあることから、「今はいない」という意味になると考えられる。よってnoを入れる。
- (b) このthereは場所を表しているため、下線部③の前にあるunder the bushes「茂みの下に」を指すとわかる。下線部②にあるunder those bushesでもよい。
- (4) 訳 「ブラック先生はヘビを見つけましたか」ブラック先生は「たぶん茂みの下にヘビはいたのでしょうか、しかし今はそこにヘビはいません」と言っているため、ヘビを見つけたわけではないとわかる。

6 英文の内容

ブラウン先生はカナダの国旗を示し、それは赤と白だと言い、リーファンが真ん中に大きな葉があるとすると、ブラウン先生は、それはカエデの葉だと答える。次郎が自分はホットケーキにメープルシロップをかけるのが好きだと言うと、ブラウン先生は、カナダ人もそうで、レストランで朝食かデザートにパンケーキを注文する人が多いと言う。バンクーバーには中国料理のレストランがあるかとリーファンが尋ねると、ブラウン先生はもちろんあって、日本料理のレストランもあると答える。次郎は日本の国旗も赤と白だと言い、真ん中に大きな赤い点があると言ったリーファンにそれは『点』ではなく太陽だと言う。

- (1) There is[are] ～.の文では、be動詞はそのあとにくる主語に合わせる。ここではmany forestsが主語なので、be動詞はare。
- (2) 直前の次郎のI like maple syrup on my pancakes!「僕は(僕の)ホットケーキにメープルシロップをかけるのが好きです」という発言を受けてCanadians do, too.「カナダ人もそうです」と言っているのだから、「カナダ人も(彼らの)ホットケーキにメープルシロップをかけるのが好きです」という内容だとわかる。次郎の発言中のmyがtheirに変わることには注意。
- (3) 訳 「バンクーバーには中国料理のレストランがあります」→「バンクーバーには中国料理のレストランがありますか」There is[are] ～.の文を疑問文にするには、be動詞とthereを入れかえればよい。someは疑問文中では普通anyになる。
- (4) ④ 下線部④より前に出てきているflag「旗」は、カナダの国旗だけである。また、すぐあとに「日本の旗も赤と白です」とあることから、日本の国旗を指しているわけではないとわかる。よって1行目のCanada's flagを指していると判断する。
- ⑤ 下線部⑤を含む文は「それは朝日です、そうでしょ?」という意味。この直前に次郎が「それは『点』じゃないよ。それは太陽だよ」と言っていることから、下線部⑤は日本の国旗の真ん中にある大きな赤い点、つまり最後から3行目のa big red spot「大きな赤い点」を指していると判断する。
- (5) 訳 「カナダの国旗にはいくつの色がありますか」1行目でブラウン先生が「それ(=カナダの国旗)は赤と白です」と言っているため、2色であることがわかる。
- 7 (1) There is[are] ～.「～があります」の文を用いて書けばよい。主語が単数ならばbe動詞はis、複数ならばareを用いる。
- (2) There is[are] no ～.「～がありません」を用いる。be動詞は主語の数に合わせる。There isn't[aren't] any ～.「少しの～もありません」を用いて表してもよい。